

札幌生まれの彫刻家



◀「遙かなる母子像」1979年
 クルミ、チーク 高さ226cm
 母親の表情をあえて彫り込まず、見る人に解釈を任せている。制作前にスケッチブックに描き留められた図案とともに展示中



本郷新は素材を削って作る「木彫」や「石彫」も手掛けました。木彫「哭」は、出来栄えを作家本人が気に入りに、後にこれを石膏で型取りしています。また、晩年に制作した木彫「遙かなる母子像」は、当初「顔のない母子像」として発表し、その1年後にクルミの木を彫った頭部を制作。発表後に形を変えた珍しい作品です。

木や石、石膏など
 素材の違いを楽しむ



▲「哭」1959年 石膏 高さ135cm
 顔を覆っている太い両腕が強い緊張感を表す。哭いている表情が見えないだけに悲しみが一層深い。約20年後に再制作した木彫作品も展示している

本郷新の作品に迫る



ほんごう しん
 本郷新 [1905-1980]

戦後の彫刻界をけん引した札幌出身の彫刻家。人々の平和と共生を願い、とりわけ野外彫刻の制作に情熱を傾けた。北は北海道から南は鹿児島県に至るまで、全国各地に設置された野外彫刻はおよそ100点に上る。

本郷新記念札幌彫刻美術館では、開館40年を記念した展覧会を5/31(火)まで開催中。展示中の作品を通して、本郷新の彫刻の魅力をお伝えします。



語り手 彫刻美術館学芸員の岩崎さん

大通公園の「泉の像」をはじめ、全国に数多くの野外彫刻を作った本郷新。アトリエ・ギャラリーとして建てられた自宅は市に寄贈され、1981年に美術館として開館しました。館内には高さ4mに及ぶブロンズ（青銅）像の原型をはじめ、デッサンなどの資料を含むおよそ1800点が収蔵されています。今もなおお色あせない、本郷新が彫刻芸術にはせた思いや平和への祈りが込められた作品を、ぜひご覧ください。

野外彫刻の原型を展示する
 類いまれな美術館

本郷新記念 札幌彫刻美術館

本館は田上義也氏、記念館は上逸野徹氏が設計。建築とアートを一体で楽しめることも魅力です。

所在地 中央区宮の森4の12 交通機関 地下鉄東西線西28丁目駅から徒歩約10分
 開館時間 10時～17時(入館は16時30分まで) 28丁目駅からジェイ・アール北海道バス【循環西20】に乗り、「彫刻美術館入口」下車徒歩約10分
 休館日 月曜(祝・休日の場合は翌日) 駐車場 10台。無料
 観覧料 300円～。65歳以上250円 中学生以下無料(展覧会によって異なる) 問い合わせ ☎642-5709

現在開催中の展覧会はこちら / いずれも5/31(火)まで

「はじめてのほんごうしん」

本郷新の作品を、最新の研究成果に基づき紹介しています。

観覧料 一般300円、高校生・大学生200円、中学生以下無料

会場 本館



「本郷新・全部展～100の石膏像」

所蔵の364点に及ぶ石膏原型のうち、厳選した100点を展示しています。

観覧料 本館展覧会のチケットで観覧できます

会場 記念館



「泉の像」のブロンズ像



ブロンズ像の完成

鑄型に溶かしたブロンズを流し込み、冷えて固まったら鑄型を割る

「泉の像」の石膏原型



粘土で制作した像を基に石膏の型(原型)を作る

石膏原型を専用の土で覆い、ブロンズ用の型(鑄型)を作る



▲「わだつみのこえ」(上半身) 1950年 石膏 高さ90cm
 腕を取り外した状態で展示中
 ▶「わだつみのこえ」1950年 ブロンズ 高さ215.5cm
 美術館の庭に設置

戦争へのさまざまな感情を表す作品「わだつみのこえ」
 本郷新が44歳のときに手掛けた戦没学生の記念像「わだつみのこえ」は、戦争に対する怒りや悩み、悲しみや苦しさと複雑な感情が、青年の身ぶりに表現されています。作品名の「わだつみ」は古語で海の神のことですが、ここでは遠い外国の海で亡くなり生きて帰ることができなかった無念の魂を連想させる言葉になっています。